

みんなの南アルプス

発行 南アルプス友の会 電話 054-221-2963 (事務局)



南アルプス写真・動画コンクール受賞作品 単線が通るのどかな農村 (c)小西 直昭

第13号発行

都市部、山間部では梅や桜が咲き、春の訪れを感じることができる季節となりました。2月途中までは平野部では降雨量・山間部では降雪量が少ない状況でしたが、3月に入って定期的に天気に移り変わるようになり、静岡市街から見える南アルプスも真っ白になっています。おそらく南アルプスはしばらく雪化粧が続きますので、引き続き美しい冬の南アルプスをお楽しみください。

さて、第13号では、南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会と南アルプスパートナーシップ賛同企業の協賛のもと井川で実施した森林継承プロジェクト、連携協議会主催で、みなとみらいで実施された観光キャラバンや他にも昨年から実施しているいかわね会議や、ふじのくに地球環境史ミュージアムで開催を予定しているイベントについてお知らせします。

南アルプスの森を復元しよう。
「南アルプスの森林継承プロジェクト」を実施しました。

2025年11月26日に南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会※1（以下、協議会）主催、南アルプスパートナーシップ※2 賛同団体協賛で「南アルプス森林継承プロジェクト」を実施しました。

当プロジェクトは南アルプス山麓の井川蒸溜所周辺の木賊地域において、人工林を伐採し、かつての自然林を復元することで、南アルプスの生物多様性に寄与することを目的に実施しました。

当日は静岡大学客員教授の増澤武弘教授を講師に迎え、南アルプスの森林に関するフィールドワークを実施したほか、今年度整備された植樹地において、ミズナラの苗木を植樹しました。また、来年度以降も継続して実施するために、現地のドングリ（ミズナラやブナなど）を拾い集め、翌年度以降に植樹する苗木造りも実施しました。



ミズナラの苗木の植樹

こうした保全活動の他にも、南アルプスユネスコエコパークにおいて大切になってくるのは自然の恵みの利活用です。木賊地域は、南アルプスの森林が育んだ豊かな湧き水「木賊湧水」があることで有名ですが、この湧水を利活用し、2020年11月、十山株式会社は井川蒸溜所を開所しました。当日は参加者全員で見学を行い、南アルプスの自然を活かしたウイスキー造りのプロセスも学びました。



井川蒸溜所の見学

協議会では今後も南アルプスユネスコエコパークの自然や歴史・文化を未来に継承していくため、保全と利活用に資する事業を展開していきます。

- ※1 南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会は行政6団体、民間等団体9団体で構成され、静岡県域を中心に南アルプスユネスコエコパークの保全と利活用に資する事業を展開しています。
- ※2 2024年、南アルプスユネスコエコパーク登録10周年を機に南アルプスの多様な課題を解決するため、行政だけでなく、企業、団体、学術機関などがそれぞれの強みを活かし、協働するために静岡市によって作られた枠組み。

横浜市で南アルプスをPR！観光キャラバンを実施しました。

2025年2月11日に南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会（以下、協議会。静岡県、静岡市、川根本町及び十山(株)、（一財）南アルプスみらい財団の計7人）と南アルプスパートナーシップ賛同団体の静岡聖光学院の生徒で「観光キャラバン」を実施しました。

観光キャラバンは協議会の主催事業としてこれまで静岡県内や山梨県などで実施してきましたが、昨年度から首都圏でのPRを目的に横浜市みなとみらいで実施をしています。MARK I S みなとみらいでのPRイベントでは各団体が協働し、南アルプスの魅力を感じてもらうため、主にファミリー層を対象にしたワークショップを行いました。



木材の端材を再利用したライチョウキーホルダーや南アルプスの動植物缶バッジ作成体験を行った。

ワークショップでは森林継承プロジェクトのために植樹地を整備した際に伐採した木材の端材を再利用し、加工したライチョウキーホルダーの色塗り体験や、南アルプスの動植物の缶バッジ作成体験、VR体験、ヒノキ材を利用したマイ箸作り体験など南アルプスに触れ合いながら楽しんでいただける内容になりました。



イベントの様子

また、全てのブースを周遊していただき、南アルプスについて楽しく学びを深めていただくためにクイズラリーも実施しました。クイズラリーの参加者には南アルプスゆかりの食べ物などが当たる景品会を実施し、こちらも盛況でした。

今後も南アルプスユネスコエコパークの認知度向上のため、首都圏においても積極的なPRイベントを実施していきます。



クイズラリーと景品会の様子

○観光キャラバンにおいてアンケートを実施しましたので結果の一部をお知らせいたします。

- ・ イベント参加者の人数137名（内アンケート回答者48名）。
- ・ 横浜市内の参加者が約6割を占め、2割が神奈川県内他市町村であった。
- ・ 年代は30～40代が8割弱を占めた。
- ①南アルプスユネスコエコパークを知っているか。
→知っている人は23%、他は知らないが65%、聞いたことのないが12%を占めた。
- ②南アルプスに登ったことがあるか。また、登ってみたいか。
→登ったことがある人は12%にとどまったが、登ってみたいと答えた人は60%になった。

南アルプスみらい財団活動報告

南アルプスの1年 – 四季の移ろい –

春分の頃、里山では芽吹きของ気配が感じられる季節となりました。南アルプスの高山帯では、まだ厚い雪が山を覆っていますが、少しずつ始まる雪解けとともに、レンジャーの1年も動き出します。

本号では、南アルプスの1年を、防鹿柵の整備作業の様子とともに御紹介します。

-山笑う-



5月、山はまだ残雪がありますが、辺りを注意深く観察すると、春の訪れをいたるところで見つけられます。

雪解け直後に発芽・展葉する植物をシカから守るため、急いで防鹿柵を立上げます。この競争は絶対に負けられません。



春

-山滴る-

7月、草木は青々と葉を茂らせ、高山植物は次々と花を咲かせます。“お花畑”と呼べるほど一面に咲き誇る花々が、登山者の心を癒してくれます。



その美しい景色を未来へ繋ぐため、積雪の影響などで破損してしまった防鹿柵を、ボランティアの皆さんとともに修繕します。



夏

-山眠る-



冬

白銀の南アルプスでは、冬毛に装いを変えたライチョウが静かにたたずみ、厳しい季節を生き抜いています。



11月以降、防鹿柵整備作業はお休みですが、関係者との情報共有・意見交換を通じて、次年度以降の効果的なシカ対策を検討します。



秋 -山粧う-

10月、防鹿柵の養生(一時撤去)作業を行います。鋼製柵より強度の低い樹脂製柵は、雪の重さを耐えることができないためです。



すべての養生作業が終わり、麓が紅葉に色づく頃、3000m級の山々は雪化粧を始め、三段紅葉の美しい景色が広がります。



☆令和8年度もボランティアを募集して防鹿柵整備活動を行います。

4月中旬頃、当財団のHP・Instagramなどに掲載しますので、御興味のある方は是非お申込みください。(財団HP：<https://www.mamf.or.jp/>)

助成研究成果発表会開催のお知らせ

南アルプス学会の研究助成対象者による成果発表会を以下のとおり開催します。「南アルプスをより良い形で未来につなげていくために」を念頭に進められた助成研究の数々は、地域の人と自然に関する新たな知見をもたらし、風土の再発見を促してくれます。南アルプスに関心ある方であればどなたでもご参加いただけますので、ぜひ会場まで足をお運びください。

南アルプス学会研究成果発表会 2026

2026年

3月20日(金・祝) 12:30-16:45

【会場】ふじのくに地球環境史ミュージアム 3F 視聴覚室

【料金】観覧料のみ 【申込】不要・当日受付

プログラム

12:30~12:35 | 開会挨拶 佐藤洋一郎(南アルプス学会長/ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)

令和7年度研究成果発表

12:35~12:55 | 南アルプス深部に生息する“幻の陸貝”マイマイ属の一種の分子系統的研究
伊藤 舜(静岡大学)

12:55~13:15 | 多角的アプローチによる南アルプスの陸生哺乳類の学術調査
岡部 晋也(国立科学博物館)

13:15~13:35 | 南アルプスの亜高山帯最高所に成立した針葉樹林の生態解明
今井 伸夫(東京農業大学) <録画>

13:35~13:55 | 南アルプス千枚岳の駒鳥池の形成史と環境変遷
富満 千尋(大阪公立大学)

13:55~14:15 | 南アルプス井川の言語と文化を継承するための研究調査
谷口 ジョイ(静岡理工科大学) <web>

14:15~14:35 | 南アルプス山村地域における関係人口としての他出子とイエ・ムラ・チイキの共同性の変容と再構築
周 玉琴(東北大学) <録画>

14:35~14:55 | 南アルプス井川地域における在来作物の栽培状況と利用
川上 香(国立民俗学博物館)

14:55~15:15 | 南アルプスにおける山岳建築の歴史
一色 智仁(東北大学) <web>

15:15~15:25 | 休憩

過年度対象者研究発表

15:25~15:45 | 静岡県北部の地殻活動と湧水から南アルプスを把握するプロジェクト(仮)
楠城 一嘉(静岡県立大学)

15:45~16:05 | 南アルプス深南部におけるオサムシの三つどもえ交雑帯の実態解明(仮)
高見 泰興(神戸大学大学院)

16:05~16:25 | 次世代 DNA バーコードによる南アルプス固有新種の探索(仮)
片岡 利文(東京都立大学)

16:25~16:40 | 総合質疑

16:40~16:45 | 閉会挨拶 田島 章次(一般財団法人 南アルプスみらい財団 専務理事兼事務局長)



【主催】南アルプス学会・ふじのくに地球環境史ミュージアム・一般財団法人南アルプスみらい財団

【お問い合わせ】南アルプス学会事務局 ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

電話 :054-260-7111 メール :museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

第2回いかわね会議の開催

令和7年12月19日、20日の1泊2日で、南アルプス赤石温泉白樺荘(静岡市葵区田代)にて「第2回いかわね会議」を開催しました。本会議は、静岡市井川地区と川根本町=いかわね地域の若者同士の交流の機会創出と、未来に向けたチャレンジの共有を目的に、県が企画し、南アルプスみらい財団が運営しました。



チャレンジを共有するワークショップ

ゲストには、地域の先達として杉山嘉英さん(森林組合おおいがわ代表理事組合長)、望月仁美さん(静岡市小河内)と、地域づくりの先駆者である牧大介さん(岡山県)、古川理沙さん(鹿児島県)をお招きしました。地域からは、井川地区8名、川根本町8名、行政機関・企業7名の合計23名の皆様に参加いただきました。

会議では、ゲストの皆様の取組を聞いた上で、各参加者が感じている課題などに対する未来像や、具体的なチャレンジを考え共有するワークショップと懇親会を行いました。

昨年開催した第1回会議をきっかけとした取組が紹介されるなど、共感・共鳴の輪の広がりが感じられる場になったと思います。今後とも、「いかわね」のつながりを支援していきます。

高山植物種子保存プロジェクト



令和8年2月21日に開催した高山植物保護指導員研修において、県立磐田農業高校生産科学科の南アルプス研究班の生徒4名が、研究成果を発表しました。

生徒たちが取り組んだのは、前号でも紹介した絶滅危惧種タカネマンテマの発芽及び種子増殖試験です。生徒たちはこの取組により、関東地区の学校農業クラブ連盟大会で見事最優秀賞に輝いています。

本研修会では、国内唯一の自生地である南アルプスを登山して観察した経験や、授業で学んだ知識を生かした発芽試験などの成果を発表していただきました。

生徒たちの堂々とした発表を聞いた参加者からは、成果をたたえる声や、激励の言葉をいただくなど、特に高く評価され、有意義な研修会となりました。



研修会の様子

南アルプス環境保全基金について

美しい南アルプスを未来に引き継ぐため、南アルプス環境保全基金への寄附をお願いいたします。



詳細は、静岡県公式ホームページを御覧ください



個人の方



企業・団体の方

基金を活用した静岡県の取組

生態系保全の取組

- ・ 高山植物を守る防鹿柵の設置
- ・ 高山植物種子保存プロジェクト
- ・ 高山帯における昆虫等の調査
- ・ 南アルプスの研究に対する支援



魅力発信の取組

- ・ YouTubeチャンネル「みんなの南アルプス」
- ・ 環境学習サイト「南アルプスの宝箱」



※寄附の詳細については、静岡県くらし・環境部環境局自然保護課までお問い合わせください。

編集後記

静岡県 暮らし・環境部 環境局 自然保護課 南アルプス担当

前号に引き続き、会報を担当させていただきました西村(修)です。今年度の業務で「ニホンジカの生息密度調査」という仕事を発注しました。聖平にどれだけニホンジカが生息しているか調べるというのですが、シカも写ればウサギやカモシカなども写っており、多様な生態系を感じるとともに高山植物を保護するという防鹿柵事業の元凶と複雑な思いを抱いてしまいました。今後も生態系のバランスを考えながら南アルプスの業務に携わりたいと思います。(西村(修))



いかわね会議、高山植物種子保存プロジェクトを担当した西村(尚)です。今年度15回も南アルプスに入りましたが、到底全域を巡るには至りません。一生かければ登り尽くせるのでしょうか…。(西村(尚))



南アルプス担当の班長をしている高塚です。

班長になると現場よりデスクワークが多くなり、南アルプスの山域に業務で入る機会が減るのですが、令和7年度は防鹿柵整備や種子プロのお手伝いで千枚岳や三伏峠などに行くことができました。もうじき令和8年度になりますが、今年の登山シーズンが天候に恵まれ、皆様にとって南アルプスが身近にアプローチできる場所になりますように！(高塚)

「みんなの南アルプス」への御意見をお寄せください。

会報誌「みんなの南アルプス」の内容のほか、静岡県や南アルプスみらい財団、南アルプス学会の取組に対する御意見・御感想をお寄せください。今後の南アルプスでの取組や誌面作りの参考とさせていただきます。送付先は、以下のとおりです。

・県自然保護課メールアドレス

【shizenhogo○pref.shizuoka.lg.jp(○を@に変更してください。)]

YouTubeで南アルプスの魅力を発信中！

○YouTubeチャンネル「みんなの南アルプス」

